

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立有田中央高等学校清水分校	森 勝博
学校所在地		
〒643-0521 和歌山県有田郡有田川町清水1028 tel 0737(25)0055 fax 0737(25)1305		
担当者名		役職名・担当教科
生駒亮司		教諭 生徒活動部長
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、有田郡有田川町清水（旧清水町）にある。昭和24年県立吉備高等学校八幡分校として開校する。昭和40年 校名改称して吉備高等学校清水分校、また平成9年には現在の有田中央高等学校清水分校となる。</p> <p>高台にある本校下を国道480号線が通る。清水地区を通り抜けるには車で1時間近くかかり、広くて小さな町である。少子高齢化が進み、本年度は3学年で生徒は8名の山の分校である。</p> <p>地元の保育園、小・中学校との交流、障害者「ふれあいキャンプ」への参加、京都大学研究林の「森林ウォーク」体験、清水山椒を JR 和歌山駅前で PR 活動、高齢者福祉センターの「介護体験」等々に積極的に参加し、自然体験や社会体験を通じて、「ものを育てる心・思いやりの心」「望ましい自然環境・社会環境作りができる力」を育成するために取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年1・2・3年生 8名	8名	高野山会館 壇上伽藍～弘法大師御廟
実践研究テーマ		
世界遺産を通して地域の歴史文化を学ぶ		
実践教科等名	単元名	
総合学習	世界遺産高野参詣道研修	
<p>〔キーワード〕</p> <p>世界遺産 郷土学習 地域学習</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>① 自然と人間の営みが長い時間をかけて作りあげてきた特別な意味のある景観について理解する。</p> <p>② 「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶ。</p> <p>③ 講習や現地学習を通して高野山の魅力を体験的に学び、その魅力や価値を理解する。</p> <p>④ 有田川町清水地区は、高野山との関係も深く、地元の歴史と高野山について学ぶ。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 8 時間 （「総合的な学習の時間 1年・2年・3年 3時間」 現地学習 4時間 事後学習 1時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>① 和歌山県世界遺産センター…次世代育成事業（現地学習）</p> <p>② 和歌山県世界遺産センター…「世界遺産入門」講座</p> <p>③ 和歌山県世界遺産マスター…現地学習の案内・説明</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	総合の時間（3学年全員） ・世界遺産について学ぶ	世界遺産とは？の基礎学習として種類・基準を理解すると共に危機にさらされている世界遺産について保存修復の必要性を知る。 「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録経過や顕著な普遍的価値の意味を理解するなど。	視聴覚教室
2	現地学習① ・高野山会館にて紀伊山地の霊場と参詣道のDVD鑑賞 ・世界遺産講座	・紀伊山地の霊場と参詣道を改めて確認する。 ・講師先生の話で、世界遺産について理解を深める。	2班に分かれる
3	現地学習② ・壇上伽藍～弘法大師御廟フィールドワーク	・二班に分け、世界遺産マスターの案内で高野山の歴史や文化価値を理解する。	2班に分かれる 世界遺産マスターのガイド
4	まとめ ・山内を歩き、高野山の歴史を知り、地域文化に触れた体験をまとめる。	生徒一人一人が体験して、気付いたこと・感動感心したことを振り返り調べをして、自分なりの考えをまとめる。	視聴覚教室 自己評価
5			

〔単元学習の成果と課題〕

成果

- ・世界遺産について学び、高野山が世界遺産として認定される過程や、歴史・文化について学ぶことができた。
- ・歴史・地理・文化・観光・産業などについて学び、地元、清水との関わりについて学習を深めることができた。
- ・体験や学習したことを振り返り、まとめることで表現力・創造力に大変効果があった。

課題・反省

- ・生徒数が少なく、全学年対象の取り組みとなったため各学年で、世界遺産について学ぶ科目も異なり、事前学習の時間確保や、内容の調べ学習を事前に充分深めておきたかった。
- ・これを機会に過疎化する本校地域の地域遺産や地域文化の価値観を見直し、地域貢献に取り組む姿勢に期待する。
- ・観光・産業調べから地域の経済効果等の調べ学習を深めたい。

〔世界遺産学習の効果〕

事後指導がたいへん充実した。生徒同士が話し合い、PCで情報を集め、生徒一人一人が独自のまとめができた。まとめを苦手とする生徒が多いなか、地元清水の歴史や高野街道・龍神街道など、他地域との人や文化のつながりについて学習でき、地元が、弘法大師や、真言宗と深いつながりがあり、地域に残る行事・伝統について理解を深めることができた。現地学習において、世界遺産マスターの案内によって、今まで知らなかったことや、気付かなかったことを知り、興味をかき立てられることが多く、意義あるものだった。身の回りにある清水地域の魅力を再発見する手がかりに役立つ。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

現地学習によって、世界遺産について学びより深く理解することができた。
世界遺産マスターの案内によって、歴史文化について、より深く学び、体験することができた。
高野山の歴史だけでなく、周辺の歴史や文化についても地元との関わりや、伝統行事などについても理解を深めるきっかけとなった。
海外の世界遺産についても視野を広め、その価値を理解し、保護を進めるきっかけとなればと思う。

様式 2

令和元年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

1年1番 『世界遺産 高野山』

高野山は816年空海が金剛峯寺を創建して、真言密教の根本道場で信仰を集めました。その中で印象に残ったものは高野山・奥の院「弥勒石」です。

弥勒石の由来は「兜率天」と呼ばれる弥勒菩薩が住む浄土からおちてきた石と言われ、撫でることで弥勒菩薩との縁を授かるのだとされています。しかし、力試しに石を持ち上げる人が増えて、片手で持ち上げて上の段に置くと願いが成就するといわれています。

持ち上げた際に「重い」と感じた人は心が悪に染まってきているといわれ、逆に「軽い」と感じた人は「心が清浄な状態を保っている」といわれています。実際に持ってみました、女性の方は片手で持ち上げることは難しいと思いました。

私は御廟橋が気になりました。御廟橋の裏に書いている文字が朝方に映ると言っていたので、見てみたいと思いました。

また、その橋を渡って、1日も欠かさず大師に食事が運ばれているのを聞いて、大変そうだと思いました。

高野山は自然豊かな土地でもあるので、次は春に行き、今回学んだことを思い出しながら、ゆっくりと見て回りたいです。

1年2番 『奥之院について』

高野山や世界遺産についての説明を受けてから、私たちは奥の院に行きました。

まず、世界遺産マスターの方に高野山の「町石」について説明を受けました。町石とは、五輪（空・風・火・水・地）を表す梵字に仏を表す梵字、町数、寄進した人の名前が石に彫られており、壇上伽藍を起点として一町（約109m）ごとに建てられているのだと説明を受けました。

次に、「なぜ、奥の院には沢山のお墓があるのか」という説明も受けました。奥の院には、あと56億7000万年経つと、弥勒菩薩がこの世にあらわれるそうです。弥勒菩薩の通訳として、空海もともに現れるそうです。例え武将同士が敵同士であったとしても、同じ奥の院という土地に眠ることのできる高野山は懐が深いなと思いました。

『壇上伽藍について』

奥の院の後は、高野山のメインとも言える、壇上伽藍に行きました。壇上伽藍などの建物は、焼けてしまったものも多いそうです。クレーンもない時代に人力だけでこんなにも大きな建物を作り直すのは大変だったろうなあとしみじみしました。今は焼けないように、防火スプリンクラーが周りに設置されているようです。

また、お寺の中にも神社があり、そこでは弘法大師さまを高野山へと導いた白い犬と黒い犬、高野山を与えた神様が祀られているそうです。神仏習合として選ばず受け入れる高野山の愛を感じました。



2年1番 『奥の院の五輪塔について』

奥の院について詳しいことは知らなかったけれど、案内をしてもらいながらゆっくり見ていると色々な発見がありました。中でも五輪塔に興味を持ちました。五輪塔は、五つの石を積んだお墓です。石には人間の体にちなんだ意味があるそうです。一番下の石は、足の部分にあたるので『地』と呼ばれます。その上は、おなかの部分にあたるので、『水』と呼ばれます。その上は心を表す『火』、その上は喉を表す『風』、一番上の部分は、頭を表す『天』という意味があるそうです。最初は、変わった形だなあとしか思っていなかったけれど、世界遺産マスターさんに一つ一つ意味があると知られて知ることができてよかったですと思いました。

2年2番 『歴史がいっぱい』

11月7日に、次世代育成事業で高野山に行きました。まず、観光した場所の説明や歴史について学びました。先生の授業が面白くて、苦手な歴史が面白く感じました。そして、現地見学をして、ガイドの先生から説明を受けました。一番印象に残っているのは、奥之院です。奥之院は本堂より奥にあります。奥之院には、弥勒石というものがあります。石を持ち上げるときに、重いと思った人は、心が悪になってきていて、軽いと思った人は、心がきれいだそうです。僕は見事片手で石を持ち上げられました。心はきれいなんだなあと思いました。その後根本大塔に行きました。そこには、三鉢の松というものがあり、それを見つけて持つておくと、お守りになるそうです。ほかにもいろんな歴史があって、すごくいい体験ができてよかったです。今までに高野山に行ったことがあるけど、何も知らなかったのだから次に高野山に行くときは、歴史について考えながら歩きたいです。機会があれば、高野山でまた授業をしたいです。



2年3番 『高野山を知る』

高野山には今までに何度か行ったことはありますが、まだまだ知らないことがありました。例えば、御廟橋の裏には、文字が書かれているということを知りました。今回は、残念ながら文字を見ることはできませんでしたが、機会があれば見てみたいです。また、建物は釘を使っていないそうです。そして、その技術を持っている人は、60人ほどしかいないということを知りました。今回の現地学習でいろんな知識を得ることができました。しかし、もっと高野山について色々知りたいと思います。

3年1番 『高野山学習を通して感じたこと』

今までも、何度か、高野山を訪れた経験はありましたが、今回、次世代育成事業を通して初めて高野山について深く学ぶことができました。

私が最も関心したことは、高野山は多くの有名大名や偉人と関係があり、彼らの墓の多くは高野山にあるということでした。例えば、織田信長についていえば、彼の墓は家康や秀吉の墓と比べてかなり質素に作られていました。これは、信長が高野山を攻め落とそうとしたことから、そう作られたということを世界遺産マスターの方がおっしゃっていました。私はこのような話から、ただ有名大名の墓が作られているわけではなく、行いなどに応じて祭られ方が変化していたことを知ることができました。

生まれてから今まで和歌山に住んでおり、高野山を身近な存在として感じておりましたが、今回の事業を通して、和歌山の高野山という遺産は素晴らしいものであることを改めて実感しました。今後は、高野山以外の伝統、歴史のある場所についての知識を深めていきたいと感じました。



3年2番 『高野山で学んだこと』

和歌山県には、36個の国宝があり、半分以上の23個は高野山にあることが分かってそれだけ長い間大切に守られて続けてきたのだと感じました。

六角経蔵で実際に回すことができ滑らかに動いて回しやすく、昔の技術も複雑にできているなあと思いました。また、昔の技術だけでなく火が燃え移らないようにするためには、最新の技術が使われていました。

奥の院にある墓の数は、年々増えているらしいのでいかに人々が極楽を求めていたことがよく分かりました。

外国人の観光客が多く、設置されている看板には日本語だけでなく英語や中国語などいろんな言葉が書かれていてグローバル化が進んでいるなあと感じました。

高野山を歩いて昔の文化をたくさん取り入れることができました。これからもほかの文化を学びたいと思いました。

3年3番 『次世代育成事業を受けて』

午前中は講義を聴いて世界遺産について、高野山について、またそれらを取り巻く環境などについて詳しく学ぶことができました。特に、人々にとっての高野山やその周辺に対する意識の変化、逆に昔からずっと変わらないものを知り、高野山の重要性や根付いている文化についての知識を得ることができたと思います。

午後は奥の院を歩き、その後壇上伽藍にも訪れました。世界遺産マスターの方に説明していただきながらだったため、個人で来ていては気づかないようなことを含め多くのことを学ぶことができました。奥の院では色々な人物の墓石を見ましたが、墓石が建てられた経緯やその大きさや形の理由について教えていただきました。壇上伽藍では根本大塔を始めとして様々な複数の建物を見て回りました。その際には奥の院と同じように建物の役割やそれにまつわるエピソードなどを教えていただきました。

高野山について多くのことを学ぶことができ、その素晴らしさも体験できました。その中で自分が学んだり感じたことが他の人たちにも伝わるようにするためにも、これからも大切に守り続けていくべきだと思いました。